



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報第27号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2006年1月1日号, No.27

第27号の目次

- 1、2006年を迎えて (2006.1.1) ...井上哲也
- 2、生活資機材、救助資機材
取扱リーダー講習受講 (2005.6.25)
...神林邦彦
- 3、ヨルダン便り(アンマンより) ...池田喜由
- 4、のりだ - のコラム ...手塚則生
- 5、編集後記

2006年を迎えて

2006.1.1

神奈川R B代表

井上 哲也



神奈川R Bが発足し、7年が経過しました。準備期間の2年間も入れると約9年間という長期にわたって活発な活動を継続できており、これは簡単には書き表せない、メンバー全員の努力と協力によるものであり、深く感謝致します。近年、メンバーの皆さんと一緒に活動して感じることは、神奈川R Bメンバー一人ひとりの「個の強さ」です。これは会の中で活動していると気づきにくいものですが、メンバー一人一人の広い意味での能力は高く、それは神奈川R Bの大きな特徴・強みだと思います。我々は団体として集まって平常時の活動を行っていますが、災害発生時に支援ボランティアを行う際は、個人での活動が基本になります。自己の安全確保や活動内容の決定などの基本的な判断能力が必要になることはもちろん、被災者に接する姿勢や他のボランティアと協調して作業を遂行する人間性、また、他人から細かな指示を受けずとも自ら考え判断し活動する柔軟性が求められます。また、「やらない勇気」も必要になる場合もあります。これら能力を元々兼ね備えている人が神奈川R Bに多く参加しているということもありますが、さらに、これら能力が各メンバーに自然と蓄積され共に成長していく神奈川R Bの環境・雰囲気、神奈川R Bの大きな良さだと思えます。もう少し掘り下げて考えてみると、神奈川R Bは、一般社会ではまず接することが無いであろう人間同士が、年齢・性別の壁もなく、対等な立場で議論し、また共に汗を流すという形態が自然に形成されており、お互いを刺激しあう環境があると思います。このベースとなっているのは、当然ながらコミュニケーションです。私は、災害支援ボランティアは細くても長く続けることが、すなわちそれが成果だと考えています。7年ないしは9年という長期の間、活動を続けていることは大きな成果です。この期間で培った、我々の財産であるメンバー一人一人の能力や人間関係をさらに深めていくことで、今後もより長く、より深い活動となることを

確信します。それには先に書いた様なコミュニケーションが不可欠です。逆にいうと、コミュニケーションさえしっかりしていれば、発生する問題・課題に対して、大小問わず乗り越えられると楽観しています。今年もコミュニケーションを密にして、活動しましょう。

生活資機材取扱リーダー

救助資機材取扱リーダー講習会報告

2005.6.25

神林 邦彦



去る6月25日9時から16時まで、港南区にある横浜市立丸山台小学校で生活資機材、救助資機材取扱リーダー講習会が行われました。メンバーである尾崎さんからの情報で表題の講習会が開催されることを知りました。メールにリンクされていた横浜市のwebページを開き講習内容を閲覧したところ今まで体

験したことがない機材の使用法が多々ありましたので早速申し込みをしました。なかなか当選の返事もなく希望者多数ということで半ば諦めていたところ幸いにも第一希望の今日受講することができました。本講習の趣旨は地域の防災拠点に備蓄してある各種機材の使用法を体得し、いざと言う時にリーダーとして地域住民に使用法を指導する為のもので



梅雨も真っ只中の6月下旬、雨天を覚悟していましたが昨日までの雨が一転快晴になり猛暑の講習会となりました。午前は「生活資機材取扱」、午後は「救助資機材取扱」と別々の講習ですが殆どの参加者

(約50名)は両方受講されていました。指導員は主に港南区役所・水道局・消防署職員・そして資機材取扱指導員(一般ボランティア)の方々でした。開講挨拶の後受講者は3班に別れそれぞれ講習が始まりました。

「午前：生活資機材取扱リーダー」の内容は以下の3点、仮設トイレ(和・洋)の組み立て 応急給水栓の設営 移動式炊飯器・飲料用濾水機の取扱いでした。

最初の作業は箱に収まっている仮設トイレのユニットを組み立てることから始まりました。ボルト・ナットをはめ込み締めるだけなので私にとっては単純で簡単に組み上がると思っていたところお互い初対面で意

思の疎通も何もなく各々作業をするため思うように組み立てられません。「やはりリーダーの存在(統率)は大切なんだな」ということを痛切に感じました。和式は本体に壁と天井を組み付けるだけでしたが苦労したのは洋式の方でした。本体にテントを足したような構造です。キャンプをする皆さんなら分かると思いますが初めて開梱してテントを組み立てようとしても各部材がどこに付くのか見当もつきません。苦労して組み上げた後によやく「こんな形になるんだ」と判る始末です。

応急給水栓とは地下に埋設してある60キロリットルのタンク(通常



は通水し震度5弱以上を検知すると遮断される)から手動ポンプを使い簡易水道栓を設営するものです。横浜市では住いから約2キロメートル以内の防災拠点にタンクがあり3日分の水を供給出来ると言う事でした。

移動式炊飯器は前市長が一度に大量の炊飯・調理ができる自衛隊の装備を参考にして取り入れた機材で簡単に言えば灯油を使った「大型の蒸し器・圧力鍋(一度に14キロの米が炊けるらしい)」と言ったところです。残念ながら長年使っていなかったらしく着火しませんでした。濾水器はフィルターが高価なため予算が無く取扱の説明のみでした。

「午後:救助資機材取扱リーダー」も3項目、エンジンカッター取扱 レスキュージャッキ取扱 発電機・投光機の取扱

午後からは のエンジンカッター取扱から始まりました。

15キロ位あるカッターで鉄パイプを切断するのですが初めて持つエンジンカッターの爆音と飛び散る火花に皆緊張気味な様子でした。

のレスキュージャッキは瓦礫に挟まれている人を救助するときに油圧で隙間を広げたり障害物を押し上げたりする時に使用するもので先端が



ワニ口その他状況に応じて様々な形をセットするようになっています。訓練では指導員が乗るベニヤ板に押し潰されている人形を救助するのですが被害者をこれ以上傷つけない様にジャッキを差し込む位置や方向を決めるのに相当悩みました。そして現場を確認すると実際に操作する人の連携がとても重要であることがわかりました。

訓練の最後は発電機・投光機の取扱です。取扱自体はさほど難しいわけ

ではありませんが唯一の注意点は「使用後に燃料を完全に抜いておく」こと。これを怠ると次回エンジンが非常に掛かり難くなるとのことでした。



全日程が終了し全員に終了証とリーダーの腕章が授与されました。講習が終わって感じたことは通常の防災訓練ももちろん大切ですが単に設置されている機材、或いは専門職が行っている作業を見学するだけでなく実際に機材を使ってみることも大切なことだなと感じました。一日だけの講習でしたがと

ても中身の濃い内容で貴重な体験をさせていただきました。最後に猛暑の中、熱心に指導して下さいました各職員並びに指導員の皆様に厚く御礼を申し上げまして報告を終わります。

ヨルダン便り(アンマンより) 近況とアカバマラソン参加記

2005.12

池田 喜由



4月来晴天の連続でしたが、昨日(21日)初めて纏まった雨がふりました。一日中降っていて、日本の秋の長雨と言った感じです。気温も一気に下がり、昼間でも10度程度しか上がりません。アンマンはこれから本格的な冬の時期です。今年は、厳冬になりそ

うです。地下の軽油タンクに1500リットル給油し、家の暖房ボイラーも入れました。セントラルヒーティングは地球温暖化に大変悪影響が出る筈ですが、ここの中流以上の家は全てセントラルヒーティングで毎冬、1500リッター以上の軽油をい軒で消費します。私は、少しでも温暖ガス排出を抑える為、1日2時間だけボイラーのスイッチを入れています。でも此方の人達(近所の富裕層)はお構い無しに24時間ボイラーは付けっ放しです。

バイクの話題: (タイム11月11日号の記事から)

タイム11月11日号に世界中の貧困層を対象に医療活動に

携わっている人たちから18名のヒーローが紹介されていました。その中で、1組バイクを使って活動している姿が紹介されています。Barry (59) & Andrea (58) Coleman 夫婦で、今はアフリカのジンバブエで活動しています。両人とも医療畑出身では在りませんが、アフリカでは、バイクを使って、医療の手助けをすることは幾らでもあると言っています。途上国への援助は、とかくハイテクではなくローテクだと言われます。この例もまさにこのような例だと思えます。

アカバマラソン参加記 2005.12



これが最後のヨルダンでのマラソン・イベント参加だ。昨年9月のアンマン・マラソン、

同じく12月のアカバ・マラソン、今年4月の死海マラソン、同じく9月の2度目のアンマン・マラソン、そして今回2度目のアカバ・マラソン。ヨルダンに来て5回目である。勿論、自分の楽しみの為であるが、もう一つ意識的にもくろんでいることがある。それは日本の顔が見えるミニ外交、文化交流である。とても雄姿と言うには程遠いが、最後尾近くでただ一生懸命、ひたむきに走る姿を土地の人々に、ランナーに、そして諸外国から参加しているランナー達に披露し語り合うことに、手ごたえを感じている。今年の21kmコースは昨年とは違うコー

スである。 昨年は、経済特区のアカバに入るチェック・ポイントの直ぐのアカバよりの地点がスタート点で、ひたすら山道を下り、海岸通のマックのあるロータリーを左に折れて1 km先のアカバ城跡がゴールであったが、今年のコースは、ずっと下った地点からだ。 アカバの街を大きく取り巻く幹線道路を走り、より市民との接触が多くなっている。 実際は、少し心配であった。 2週間ほど前から、咳が止まらないのである。 熱もなく倦怠感もない、単に咳が止まらない。 喉の炎症だけだろうか。 肺機能には異状はないだろうか。



先週末も、咳はあったが、いつもの朝ランを走ったらどうもな

かった。 肺機能には異状はないようである。 そんなこともあり、超スローでスタートした。 普段は中間位のランナーにペースを合わせ、引っ張って貰うのだが、今日ははなから最後尾を走る。 それが功を奏して、時間こそいつもの2時間半ペースであるが、之までのヨルダンでの4回のマラソンに比べ、最高の走りであったと、自己満足している。 最近いつも起こる16 km辺りでの足の故障もなく、始めから終わりまで、歩くことも無く、ほぼ一定ペースで、走ることができた。 今年も4台の大型専用マラソン・バスで、前後をパトランプを点滅させたパトカーに護衛されアンマンからアカバにやってきた。 ヨルダンの12月の風物詩の一つである。 アンマンを15:30に出発し、途中ドライブ・インで30分の休憩、アカバのホテルには20時に到着した。 11月9日のアンマン・ホテル連続爆弾テロで、ホテルの警備は物々しい。 車は全て道路向かいの専用駐車場に停めなくてはならない。 ホテルの車寄せにはアクセスできない。 ホテルの玄関では、航空機搭乗時より厳しい荷物検査、身体検査がある。 空港でお馴染みの金属探知ゲートを通り、ボデー・チェックを受ける。 それでもロビー階は危険であると、ロビー階に居る時間をできるだけ短くするようにと、事務所からのアドバイスに従い、早々に部屋へ姿を消す。

翌日、いつもと同じ時間、6時半に起床。 早めの朝食を取る。 一流ホテルの朝食は一つの楽しみでもある。 リッチな気分を一時楽しむ。 8時に隣のバスセンター駐車場でマラソンのチェック・インが始まる。 いつも不思議に思うことがある。 此方の世界では何事を行うにも、小さなことから大きなことまで極めて曖昧なまま始める。 例えば、今職場では新しい建屋が建設中であるが、日程管理をする予定表が何処にもない。 それでも、いつの間にか形が出来上がってくるのである。 マラソンの集合も同じだ。 8時に行っても、何処に並ぶのか、誰が陣頭指揮を取っているのか、全く混沌としている。 それでも、8時10分頃には、何となく21 km参加者はある程度まとまり、胸の位置に貼ったゼッケンをバーコードリーダーで読み取ってもらい、バスに乗り始めるのである。 この辺の物事の運び方が独特なのである。 日本では何でもきちんと、組織され、滞りなく事が進むのが常であるが、まるで違った展開がここにはある。 日本人には、誠にいらいらの募ることしきりだ。 それでいて大した遅れもなく、ことが運ぶのだから不思議である。 バスは予定通り8時半きっかりにバスターミナルをスタート地点に向け、出発

したのである。

今年もあの陽気なスペインの女将が率いるスペイン・ランナー軍団の姿が見える。 21 kmの参加者層は完全に2手に分かれる。 1グループは走るグループ、主に土地のランナーと、外国から毎年参加する走る常連。 後のグループは、所謂市民マラソンを楽しむグループ。 私は言わずと知れた後者のグループに属す。 後者のグループの年齢層は広い。 小学生くらいの子供から、私の歳を越していると思われる御年配の方も居る。 今回も日本人は私一人のようだ。 咳の止まらない身体での参加である。 熱も倦怠感も無いが、念の為、超スローペースで走ることにした。 トップ集団は颯爽と飛び出して行った。 いつもなら中間集団についてゆくのだが、今日は本当の後部集団の後部に付いた。 3 kmくらいで、体の燃焼形態が変わるのがわかる。 脂肪が燃焼したのである。 息が楽になる。 5 kmくらいでランニングハイの状態になる。 10 kmくらい幹線道路を下った処で右折し、アカバ空港への道に出る。 空港の手前で左に折れて街を大きく取り巻く周辺道路に入る。 住民の住宅街を走るのである。 自然多くの普段着の市民に遭遇する。 商業地区を走るより遙かに良い気分である。 後6 km(15 km)地点に達した。 最近はこの辺りで足の故障が発生し、暫く歩くことが多い。 ところが、今日は少し様子が違う。 まだ、余裕なのである。 これは、旨く行くと、ゴール迄、故障なしで完走できるかな。 かすかな希望が湧く。 住宅街をゆっくり海岸へ向かい、殆ど真っ直ぐな道を走り抜ける。 土地の子供達が、ヤバニー(日本人)と陽気に声を掛けてくれる。 この一瞬が私の第2の目的だ。 反響があるのは嬉しい。

あと2 kmのサインボード。 Raddison SAS、 Intercontinental、マック、パブリック・ビーチを経てゴール



のアカバ城跡に辿り着いた。 足は未だ大丈夫だ。 ヨルダンでは最高の走りでゴールできた。 ヨルダ

ンに赴任する前に崩した体調も、これで完全に元に戻った感である。 タイムは2時間27分57秒。 ゴール後、既にゴールしていたPSTU(プリンス・スマヤ・工科大学)の電子科の学生や、アカバ大学でホテル業を専攻している学生達と健闘を讃えあい、身の上話をし、三々五々別れた。 大いに楽しみ、自信を回復し、有意義に過ごせたアカバ・マラソンに喝采。

アカバの静かで蒼い海に、一緒に走り語った名も知れぬランナー達に、そして身に余る贅沢な機会を与えてくれたJICAと家族に感謝。

のりだーのコラム

「バイクをとめさせて」の巻

2005.12.28

手塚剛生

毎週通う渋谷の医者が入っているビルの駐車場にバイクを置かせて貰えな

くなりました。今までは1時間50円と言う安さもあり助かっていたのですが、もう4輪車しか受け入れないとの事。今までは係員のおじさんが車の出入りを管理する仕組みだったのが、遮断機のついた機械からチケットを取る形



に自動化されてしまったのです。15年以上もずっと利用して来たのに、それを知った僕はビルの管理会社に電話を掛け猛抗議しました。週に1度しかない休日=通院日には、限られた時間内に他にも離れた場所の2件の医者を巡るためにはバイクがとても便利であったと言う私的な事情もありますが、なにしろこのビルがある道玄坂と言うところは普段から夥しい数の路駐バイクが1車線を完全に塞いでいてとてもひどい状態なのです。その為に良く警察によるバイクの撤去も行われています。リフト付きトラックで運び去るのです。だからこそこのビルの駐車場がバイクでも利用できる事を知って以来、必ず利用してきたのです。この地域への貢献と言う意味でもバイク受け入れを続けて欲しかった。しかもこの駐車場は、撤去されたバイクに関しては不明ですが昔からレッカー移動された4輪車の一時保管場所にもなっているのです。つまり警察とも仲よし。



何だか妙な怪しさも感じてしまいます。ビル管理会社との電話では、人件費削減の為に機械式導入である事とその機械が反応しないからバイクの受け入れはやめたと言う説明を繰り返されましたが、ちょうど同じ時期に確か六本木にバイク用駐輪場が出来たと言うニュースをテレビで見たのです。この駐輪場の説明として、「違法駐輪バイクが多いのは有料駐輪場がバイクの受け入れをしない事が大きな原因である」と言う事でした。

大都市の効率的な移動手段の一つとしてバイクを積極的に社会が受け入れてくれれば安易な自動車の個人利用も減り、ひいては交通渋滞の緩和にも役立つと思うのですがどうでしょう。

【その他のイベント】

運営ミーティング 11/6、12/4

ボランティアのための救護法研修会・10/18、11/15、12/20

忘年会 12/4

..!!お知らせ!!..

神奈川RB携帯電話用サイト開設中

<http://k.excite.co.jp/hp/u/krpkrb/>

(i-mode/vodafone/EZwebの各形式対応)

編集後記

2006年のスタート。年末には酷暑の中、列車事故で多くの方が亡くなりました。災害には何処で会うか判りません。たいへん不幸なことです。今年が災害の少ない年であることを切に願っています。

さて、先日Toy & Book Runなるイベントに参加してきました。私の乗っているバイク、パラデロのオーナーズクラブのイベントで名前の通りおもちゃや本を持って児童養護施設を訪ねる。というものです。3回目になる今回は長野県のT学園を訪ねました。児童養護施設というのは災害や事故、親の離婚や病気など様々な事情で適切な養育を受けられない児童が共に生活する施設です。当日はMr. Bike誌の記者の方も参加し各二輪メーカーからの協賛も得てスムーズな会となりました。子供達の素直な反応にホッとすると共に息長い活動にしたいと思いました。

個人的には今年は3年連続の引越して慌しい年になりそうです。鶏卵業界に身をおく自分には鶏インフルエンザの問題など課題山積です。なんとか時間を見つけてツーリングに行きたいものです。皆様是非お誘いください。

(お)

神奈川RB事務局

代表: 井上哲也、事務局長: 西山圭(旧姓辻谷)

郵送先: 〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Fax: 045-312-1862(取次ぎ: レターケース No.81 宛て)

URL: <http://www.2aimet.ne.jp/krb/>

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者: 神奈川RB会報担当 太田隆行

神奈川RB会報発行にあたりまして、お好み焼き「おにがわら」様のご支援を頂いております。みんなで行きましょう!

但し冬期は中島さんが修行と研究の為休業の期間があります。

営業を確認の上お出かけください。



関西風・広島風 お好み焼き おにがわら

店主: 中島信義 山梨県北巨摩郡大泉村 Tel: 0551-38-4030

JR小海線甲斐大泉駅北約1.5km・ダイヤモンドハケ岳ホテル前

夏季(7・8月) 11:30~14:30、17:30~20:30(火・水定休、祝日は営業)上記以外の期間 11:30~14:30、17:00~20:00(火・水定休)

おにがわらでは新メニューを用意して皆様のお出でをお待ちしています。

念の為営業を確認の上お出かけください。